

鹿島灘・九十九里沿岸の海底餌料環境

水産土木工学部

研究の背景・目的

海底をすみかとする魚介類の餌料環境を調べるため、2013年から鹿島灘・九十九里沿岸の水深10mと30mとの海底表面の微細藻類量を調べています。両海域とも貝類・エビ類・カニ類や底魚類などの好漁場です。海底表面の微細藻類は、チョウセンハマグリやウバガイなど二枚貝の餌となるとともに、エビ・カニ類や底魚類に食べられるゴカイ類などの餌にもなっていると考えています。

研究成果

海底表面の微細藻類の量は、鹿島灘より九十九里の方が多量で、両海域とも水深30mで多いこと、九十九里沿岸の水深30mでは変動の大きいことがわかりました。

波及効果

海底表面の微細藻類の量は海底をすみかとする魚介類の餌料環境の指標となります。餌の量は生き残りや成長を通して生物の数や量に影響します。本成果は、この海域の重要資源のチョウセンハマグリなど二枚貝の資源変動の原因解明に貢献することを目指しています。

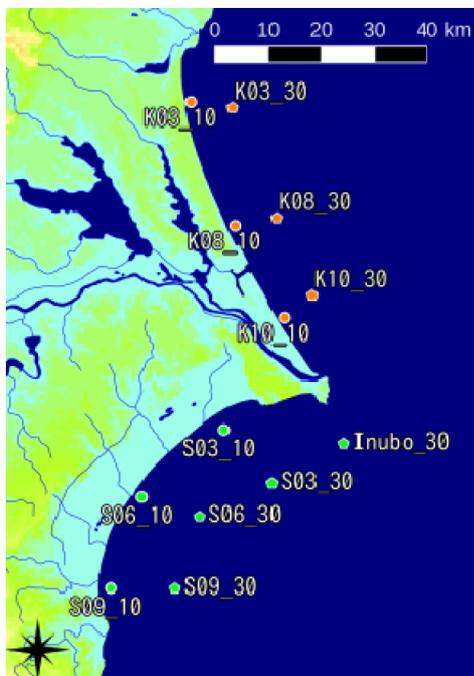


図1 鹿島灘・九十九里沿岸の調査定点

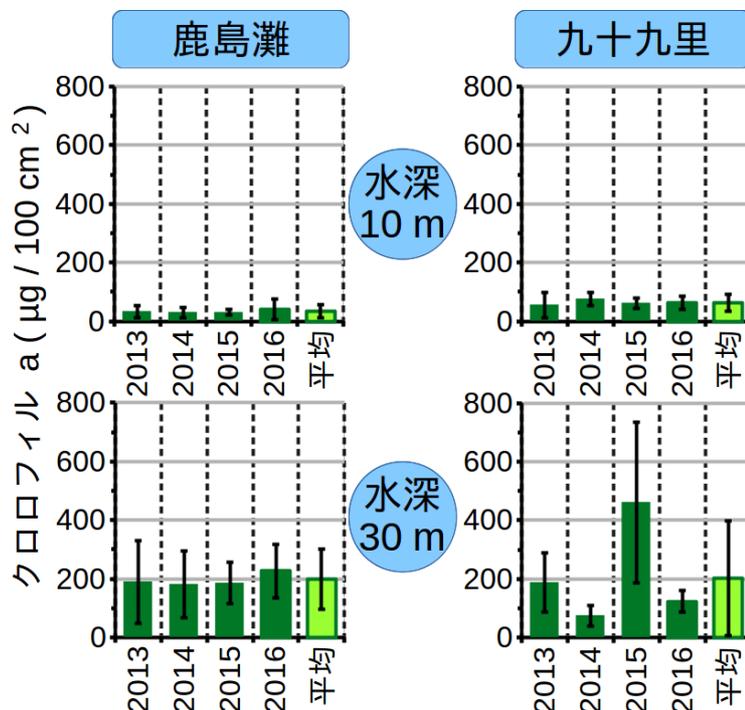


図2 2013年～2016年の海底表面の微細藻類量

(生物環境グループ: 宇田川徹・渡辺一俊、水産基盤グループ: 杉松宏一)